

## 第4学年 算数科学習指導案

### 1 単元名「垂直平行と四角形」

#### 2 単元の目標

- 直線の位置関係や四角形についての観察や構成などの活動を通して、直線の垂直や平行の関係、台形、平行四辺形、ひし形について理解し、図形についての見方や感覚を豊かにする。
- ㊦ 身の回りから垂直な2直線や平行な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形などを見つけ、それらが使われる場面について考えようとしている。
- ㊦ 辺の位置関係や構成要素を基に、各四角形の性質を見出し表現したり、各四角形の対角線の性質を統合的にとらえたりすることができる。
- ㊦ 垂直な2直線や平行な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形をかくことができる。
- ㊦ 垂直な2直線や平行な2直線及び、台形、平行四辺形、ひし形の意味や性質について理解し、図形についての豊かな感覚をもつ。

#### 3 こんな子どもに

本学年の子どもたちは、図形について第3学年「三角形」で辺の長さに着目して三角形を二等辺三角形や正三角形に分類することを、第4学年「角の大きさ」で角の大きさの表し方を学習した。ここまでの学習では、図形をとらえる視点として、「辺や頂点の数」「辺の長さ」「角の大きさ」に着目してきた。本単元では、「平行」「垂直」「対角線の交わり方や長さ」という新たな視点が加わることとなる。

#### 4 こんな内容を

本単元では、図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、直線の垂直や平行の関係、平行四辺形、台形、ひし形について理解することがねらいである。つまり、①直線の交わり方（「垂直」の概念とその弁別、垂直な直線の作図）②直線の並び方（「平行」の概念と弁別、平行な直線の性質、平行な直線の作図）③いろいろな四角形（「台形」と「平行四辺形」の定義、平行四辺形の性質、平行四辺形の作図、「ひし形」の定義・性質・作図、「対角線」の意味、四角形の対角線に関する性質）について、具体的な算数的活動を仕組みながら、そこから導き出した考えを二人組、グループ交流、全体交流と伝え合いながら学習を進めていく。

#### 5 こんな活動で

本単元の指導にあたっては、学習過程を「つかむ」「見通す」「追究する」「振り返る」の段階にそって進めていくが、意図的・計画的に学習過程の「見通す」「追究する」段階に「伝え合う活動」を仕組みでいく。単元導入段階の「直線の交わり方」「直線のならび方」の学習においては、垂直や平行の概念を各自が調べる活動を通して身に付けていく。そのために「見通す」段階に重点をおいたタイプ1で授業を行い、調べる視点をしっかり伝え合えるようにする。単元中盤のいろいろな四角形の学習では、子どもたちがより確実に本時目標を達成していく上で「見通す」段階と「追究する」段階のどちらに重きをおいて学習を進めるのが適切であるか考慮して本単元を構成する。単元終盤の「まとめ」の段階では、本単元の習熟度を子どもたちが自分で確認できるようにタイプ4で授業を行う。このように、教師の意図的・計画的な交流の仕組みのもとに、子どもたちがより確かな見通しや、確かな数理を獲得できるようにする。

6 単元指導計画(全16時間) ※第1時～第6時は、垂直・平行の定義についての学習を進めている。

	第7時(組本時)	第8時	第9・10時	第11時
本時目標	○四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の性質を理解する。	○平行四辺形の性質を理解する。	平行四辺形をかくことができる。	○ひし形の意味や性質を理解し、ひし形をかくことができる。
学習内容と伝え合う活動	<p>1 学習問題を知る</p> <p><b>四角形の仲間分けをしよう。</b></p> <p>2 見通しをたて、めあてをつかむ</p> <p><b>【二人組→全体交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上にいくほど辺が狭まる並び方と、そうでない並び方がある。</li> <li>・垂直になっている辺がある。</li> <li>・平行な辺がある四角形とない四角形がある。</li> </ul> <p>平行な関係になっている辺に目を付けて、仲間分けをしよう。</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する 全体交流</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p><b>向かい合った1組の辺が平行な四角形を台形といい、向かい合った2組の辺が平行な四角形を平行四辺形といいます。</b></p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p><b>平行四辺形の特徴を調べよう。</b></p> <p>平行四辺形のきまりをみつけよう。</p> <p>2 見通しをたてる 全体交流</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する <b>【グループ交流→全体交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辺の長さを測ると、向かい合う辺の長さが等しい。</li> <li>・角度の大きさを測ると、向かい合う角の大きさは等しい。</li> <li>・調べて分かった特徴は、別の平行四辺形でもあてはまる。</li> </ul> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p><b>平行四辺形の、向かい合った辺の長さは等しくなっています。また、向かい合った角の大きさも等しくなっています。</b></p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p><b>次の図のような平行四辺形をかいてみよう。</b></p> <p>平行四辺形のかき方を考えよう。</p> <p>2 見通しをたてる <b>【グループ交流→全体交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頂点Dは点Bから角度をとるとよい。</li> <li>・コンパスで長さを合わせて頂点Dを決める。</li> <li>・2枚の三角定規を使えば平行な線がひける。</li> </ul> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する</p> <p>5 本時学習を振り返る ※作図の仕方を示したプリントをまとめとする。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p><b>次の四角形の特徴を調べよう。</b></p> <p>2 ひし形の定義を知る 辺の長さがみんな等しい四角形を、ひし形といいます。</p> <p>ひし形のきまりを調べよう。</p> <p>3 見通しをたてる 全体交流</p> <p>4 自力解決する</p> <p>5 課題を追究する <b>【グループ交流→全体交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向かい合った辺は平行になっている。</li> <li>・角度の大きさを測ると、向かい合う角の大きさは等しい。</li> <li>・調べて分かった特徴は、平行四辺形の特徴と同じところがある。</li> </ul> <p>6 本時学習を振り返る</p> <p><b>ひし形の、向かい合った辺は平行になっています。また、向かい合った角の大きさは等しくなっています。</b></p>
伝え合う活動の支援	「見通す」場面では、辺の並び方に注目して、どんな仲間分けができるのか全体で話し合い、平行に目をつけた仲間分けの視点に絞っていく。その際、掲示物を使って、平行の概念や平行な直線の性質を振り返る。	「追究する」場面では、調べた結果をもとに、平行四辺形の特徴を練り上げていく。そのために、調べた結果から共通点を見出していく場を作る。	「見通す」場面では、「頂点Dの位置はどのようにして決めればよいか」という発問から、考える視点を与えることで、作図の方法を交流する。平行四辺形の定義や性質を想起させ、それを利用した書き方を伝え合う。	「追究する」場面では、調べた結果をもとに、ひし形の特徴を練り上げていく。さらに、平行四辺形との共通点や相違点も明らかにする伝え合いを行う。
	タイプ1【見通し重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ1【見通し重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】

	第12時 (組本時)	第13時	第14時 (組本時)	第15・16時
本時目標	○対角線の意味と、いろいろな四角形の対角線の特徴を理解する。	○長方形や平行四辺形を対角線で分割してできる、2つの三角形は合同であることを知り、これらを使っていろいろな四角形をつくることのできる。	○それぞれの四角形の定義や性質の理解を深め、平行四辺形・台形・ひし形をかくことができる。	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。
学習内容	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>下の四角形で、向かい合った頂点を結んでできる直線の特徴を調べよう。</p> <p>・対角線について知る。 対角線の「きまり」をみつけよう。</p> <p>2 見通しをたてる 全体交流</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する 【グループ交流→全体交流】</p> <p>・正方形は、等しい長さで直角に交わる。交わった点から頂点までの長さが等しい。</p> <p>・長方形は長さが等しく、交わった点から頂点までの長さが等しい。</p> <p>・台形は長さが違う。交わった点から頂点までの長さも違う。</p> <p>・特徴を表でまとめる。</p> <p>5 本時学習を振り返る</p> <p>対角線は四角形によってきまりがある。対角線が分かると、その四角形も分かる。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>長方形や平行四辺形を、1本の対角線で2つに切り分けて、それらを使っているいろいろな四角形をつくらう。</p> <p>・長方形・平行四辺形を1本の対角線で切り分けてできる三角形について調べる。</p> <p>いろいろな四角形を作らう。</p> <p>2 見通しをたてる 全体交流</p> <p>3 自力解決する</p> <p>4 課題を追究する 【全体交流】</p> <p>・長方形の中にできた同じ三角形を組み合わせれば、平行四辺形ができる。</p> <p>・平行四辺形の中にできた同じ三角形を組み合わせれば、長方形ができる。</p> <p>5 本時学習を振り返る ※二つの三角形を組み合わせてできた四角形を掲示し、まとめとする。</p>	<p>1 学習問題を知る</p> <p>下の図のような四角形をかこう。</p> <p>2 見通しをたて、めあてをつかむ。</p> <p>いろいろな台形・平行四辺形・ひし形のきまりを使って図をかこう。</p> <p>3 課題を自力解決する 【全体交流】</p> <p>・平行四辺形は、向かい合った辺が平行になるから2枚の三角定規を使った。</p> <p>・平行四辺形は、向かい合った角の大きさも同じだから、分度器も使えた。</p> <p>・平行四辺形は、向かい合った辺の長さも等しいから、コンパスも使えた。</p> <p>・ひし形をかくとき、対角線の特徴が使えた。</p> <p>4 本時学習を振り返る ※それぞれの作図の仕方を振り返り、まとめとする。</p>	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>仕上げの問題に取り組もう。</p> <p>仕上げの問題に取り組む、四角形の学習のまとめをしよう。</p> <p>2 見通しをたてる</p> <p>3 課題を自力解決する</p> <p>【全体交流】</p> <p>・平行四辺形のどんな性質を使ったのですか。</p> <p>・ひし形の対角線の特徴は、垂直に交わる…</p> <p>・平行な直線は…</p> <p>4 本時学習を振り返る</p>
伝え合う活動の支援	「追究する」場面では、調べた結果をもとに、対角線の特徴を整理していく。グループ交流を通して、調べた結果をもとに、自分の考えを修正・深化する場を取り入れる。また全体交流では、共通点や相違点から、それぞれの対角線の特徴の理解を確かにする。	「追究する」場面では、それぞれの四角形を対角線で切り分けてできた三角形を使ってできる四角形について、伝え合う。	「課題を自力解決する」場面では、二人組で答え合わせする時、伝え合う視点を提示しておき、四角形の性質を明らかにした答え合わせができるようにする。伝え合う活動がスムーズにいくように、場(答え合わせの場、ヒントをもらう場)を工夫する。	「課題を自力解決する」場面では、自分の考えを相手に説明したり、質問をしあったりして伝え合う。自分の考えを確かにしたがり、これまで学習したいろいろな四角形の定義や性質・対角線の特ちょうを振り返ることで理解を確かにして技能を身につけさせる。
	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ2【練り上げ重視型】	タイプ4【習熟重視型】	タイプ4【習熟重視型】

1 本時目標

- 四角形を分類する活動を通して、台形と平行四辺形の意味を理解することができる。

2 本時のタイプ

タイプ1【見通し重視型】：見通しでの考え方を焦点化していく伝え合う活動

3 本時授業仮説

「見通す」段階において次のような支援を行えば、解決の見通しをつかみ、台形と平行四辺形の定義を理解することができるであろう。

- ① 自分の見通しを広げたり修正したりするための二人組での伝え合う活動  
見通しを焦点化するための全体での伝え合う活動
- ② 平行の関係に目をつけていくための発問

4 本時指導の考え方

本時では、四角形の平行な関係に着目して、台形と平行四辺形の意味を理解する場面である。台形と平行四辺形の共通した性質である平行な関係に着目できることが本時では重要になってくるので、見通しの段階で平行な関係に視点をもたせることができるようタイプ1で授業を行う。

伝え合う活動Ⅰにおいては、仲間分けをする際に、子どもたちから辺の長さや角の大きさなど多様な仲間分けの視点が出てくることが予想される。そこで、本時では新しい仲間分けの視点【辺の並び方】に気付かせるために、「平行な関係になっている辺に目を付けて四角形の仲間分けをしよう」というめあてを引きだしていく伝え合う活動を仕組む。

伝え合う活動Ⅱにおいては、平行の有無で仲間分けしたものと平行の組数で仲間分けしたものとを比較し、平行の組数に着目した全体交流をさせる。平行な組数に着目した仲間分けをさせることで台形や平行四辺形の定義に導いていく。

このように、タイプⅠを取り入れることで、どの子も平行な関係に着目した仲間分けができ、四角形の新しい見方に気付き、台形と平行四辺形の新しい定義を身に付けることができるだろう。

5 授業の展開(7 / 16)

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つ か む	<p>1 学習問題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">問題</div> <p>四角形を仲間分けしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直角の視点で仲間分けしたものを掲示しておく。</li> <li>・具体物を使って分類できるように、児童用に図形カードを準備する。</li> </ul>

見通す	<p>2 見通しをたて、めあてをつかむ</p> <p><b>【二人組の交流】【伝え合う活動Ⅰ】</b></p> <p>○辺の長さが同じ長さの辺がある四角形とない四角形がある。</p> <p>○垂直になっている辺がある四角形とない四角形がある。</p> <p>○平行な辺がある四角形とない四角形がある。</p> <p><b>【全体交流】</b></p> <p>○辺の長さに目を付ける。</p> <p>○角の大きさに目を付ける。</p> <p>○平行・垂直に目を付ける。</p>	<p>仲間分けの視点をもたせるために 「どんなところに目を付けたら仲間分けができるだろう。」</p> <p>* 二人組でどんなところに目をつけると仲間分けできるか伝え合う。</p> <p>* 二人組で交流したことを全体で確認する。</p> <p>・自分の考えと友達の考えを比べながら聞くよう指導する。</p> <p>* 既習である辺の長さに着目した仲間分けや辺の交わり方に着目した仲間わけについては掲示物を使って伝え合わせる。</p>
追究する	<p>めあて: 平行な関係になっている辺に目を付けて、四角形の仲間分けをしよう。</p> <p>3 自力解決する</p> <p>○どのように仲間分けできるだろう。</p> <p>4 課題を追究する</p> <p><b>【全体交流】【伝え合う活動Ⅱ】</b></p> <p>○①②③④⑤⑦⑧と⑥⑨に分けることができる。平行な直線があるものとないものに分けた。</p> <p>○③⑧と①②④⑤⑦と⑥⑨にわけることができる。1組平行と2組平行と平行無しに分けた。</p>	<p>仲間分けの視点を焦点化するために 「新しい見方で仲間わけしてみましよう。」</p> <p>* 平行な関係とはどういったものか、既習の内容を教室の掲示物を使って確認する。</p> <p>・机間指導を行い、つまづいている児童には平行の関係を確認し、辺の平行を見つけるよう促す。</p> <p>* 平行に着目してそれぞれが仲間分けしたものを、図形カードを使って伝え合う。</p> <p>* 平行かどうかを確認するために、発表するときは三角定規を使用し、平行であることを証明するようにする。</p>
振り返る	<p>5 本時学習を振り返る</p> <p>まとめ</p> <p>向かい合った1組の辺が平行な四角形を台形といい、向かいあった2組の辺が平行な四角形を平行四辺形という。</p>	<p>平行の組数に着目させるために 「詳しく仲間分けしているのはどちらだろう。」</p> <p>* 掲示物を使いながら平行四辺形、台形について説明をする。</p>

## 第12時

### 1 本時目標

- 対角線の意味と、いろいろな四角形の対角線の特徴を理解する。

### 2 本時のタイプ

タイプ2【練り上げ重視型】：追究での考え方を焦点化していく伝え合う活動

### 3 本時授業仮説

「追究の段階」の段階で、次のような支援を行えば、考え方の相違点や類似点に着目した伝え合う活動を行い、対角線に対する性質を理解できるであろう。

- ①一人一人の考えを、課題別に交流するための、グループ別での伝え合う活動  
四角形の対角線の性質を、整理するための全体での伝え合う活動
- ②四角形の対角線の性質の、相違点・類似点に着目しながら整理していく発問

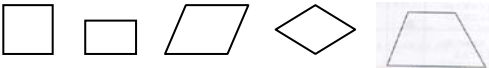
### 4 本時指導の考え方

本時学習は、前時までに学習した四角形の中にできる、対角線の特徴を理解し、対角線による新しい四角形の見方を身に付けていく場面である。つまり、四角形の対角線の相違点・類似点に目を向けた「追究する」段階が重要であると考えられることができる。そのために、タイプ2【練り上げ重視型】で本時授業を行う。

伝え合う活動Ⅰでは、まず、向かいあった頂点を結んでできる直線に目を向けさせ、その直線が対角線ということを知らせる。そして、四角形の中にできる対角線にどんな「きまり」があるか問題意識を持たせることで、「四角形の対角線のきまりをみつけよう」というめあてをひきだす。その後、四角形の中に対角線をひかせ、それを指でなぞることで、対角線の交わり方や、頂点から対角線の交点までの長さに視点がいくようにさせ、調べる視点や答えの見通しを導き出す。その後、自分が調べたい四角形を決めさせ、自分なりの見通しをもって自力解決に入らせる。

伝え合う活動Ⅱでは、一人で調べた対角線の特徴を、四角形別にグループ交流をさせ、まとめさせる。そのことで、一人一人の追究のよさに気づき合ったり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。全体交流では、四角形別に発表させる。その後、それぞれの対角線の相違点や・類似点について交流させながら整理していくことで、自分が調べた対角線以外の対角線の特徴を理解し、対角線で四角形を見る新たな見方を身に付けさせていく。

### 5 授業の展開（12／16）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つかむ	<p>1 学習問題を知り、めあてをつかむ</p> <p>下の四角形で、向かい合った頂点をむすんでできる直線の特徴を調べよう。</p> 	<p>・これまで学習した四角形を、種類別に（正方形・長方形・ひし形・平行四辺形・台形）提示していく。</p>

見  
通  
す

追  
究  
す  
る

○対角線について知る。

めあて

対角線の「きまり」を見つけよう。

2 見通しをたてる【伝え合う活動Ⅰ】

【全体交流】

○頂点から頂点までの対角線の長さを測る。

○対角線の交わる角度を調べる。

○対角線が交わった点から頂点までの長さを測る。

3 自力解決する

○対角線には、どんなきまりがあるのだろう。

○自分が調べてみたい四角形を追究する。

4 課題を追究する【伝え合う活動Ⅱ】

【グループ交流】

○平行四辺形：二つの直線の長さは等しくない。

頂点までの長さは等しい…

【全体交流】

○四角形別に発表する。

○相違点や類似点を伝え合う。

・正方形、ひし形は、等しい長さで直角に交わる。

・平行四辺形やひし形の対角線は交点で2等分されている。

・台形は、対角線の長さが違う。交わった点から頂点までの長さも違う。

名前 きまり	正方形	長方形	平行四 辺形	ひし形	台形
2本の対 角線長さ	等しい	等しい	×	×	×
交点から 頂点まで の長さ	4本等しい	4本等しい	2本等しい	2本等しい	×
交わり方	垂直	×	×	垂直	×

5 本時学習を振り返る

対角線は四角形によってきまりがある。  
対角線のきまりが分かるとその四角形も分かる。

振  
り  
返  
る

・向かい合った頂点をむすぶと四角形の中に直線ができ、それを対角線ということを知る。

・平行四辺形の中に対角線をかく。

\* 見通しを全体で伝え合うことで、調べる視点つかむ。

見通しを焦点化するために

「2本の対角線をなぞってみましょう。対角線の何に目をつけたらいいですか。」

考えを広げたり深めたりするために

「調べたことをグループで伝え合ってください。」「グループで、調べたことを図にまとめましょう。」

\* 課題別グループでの伝え合う活動を行う。

\* 全体での伝え合う活動を行う。

対角線の特徴を整理するために

「四角形の対角線どうして、似ている点や違っている点はどこですか。」

\* 黒板の四角形の対角線を使いながら説明するように指導する。

・特徴がわかるように、対角線の長さや、交わる角度に色づけをしていく。

\* それぞれの対角線の相違点や類似点に着目する伝え合いを促す。

\* 特徴を確かめながら、表に整理していく。

\* 対角線の特徴から、四角形について新しい見方ができるように促す。

・本時の学習を振り返り、まとめをする。

1 本時目標

- それぞれの四角形の定義や性質の理解を深め、平行四辺形・台形・ひし形をかくことができる

2 本時のタイプ

タイプ4【習熟重視型】：自力解決で、自分の考えを確かにする伝え合う活動

3 本時授業仮説

「自力解決」の段階において、次のような支援を行えば、それぞれの四角形の定義や性質の理解を深め、作図を定着させることができるであろう。

- ①平行四辺形，台形，ひし形のかき方を確かにするための伝え合う活動
- ②かき方のもとになる考え方や根拠を振り返り，それぞれの四角形のかき方の手順を確かめるための発問の工夫

4 本時指導の考え方

本時は算数的活動を通して学習を深め、興味を広げる段階である。そこで、前時までの学習をもとに、台形、平行四辺形、ひし形のかき方の手順やかき方の根拠となる性質を振り返り、作図習熟のための課題を解決していく時間である。そのため、習熟を重視するタイプ4【習熟重視型】で行う。

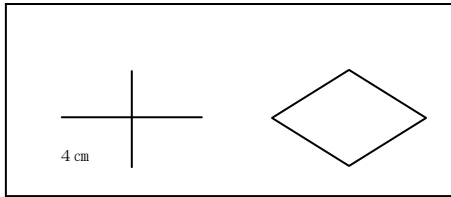
見通しの段階では、掲示物や提示資料を使って、平行四辺形、台形、ひし形のかき方の手順を振り返るとともに、かき方の根拠である四角形の定義や性質の理解を確かにする。その後、学習問題の平行四辺形、台形、ひし形の作図に取り組む。自力解決の活動では、答え合わせのコーナーにおいて子どもたち同士で答え合わせを行う。その際、伝え合いの仕方のチェックシートを参考に、手順や四角形の性質の説明も伝え合わせることで理解を確かにする。

5 授業の展開（14／16）

	学習活動と伝え合う活動の内容	・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援
つ か む	<p>1 学習問題を知る 下の図のような四角形をかきましょう。</p> <p>2 見通しをたてめあてをつかむ 【全体交流】 (1)四角形の性質を振り返る。 (2)作図を振り返る。 ・分度器を使えばかける。 ・コンパスを使えばかける。 ・三角定規を使えばかける。</p>	<p>・主な支援と*伝え合う活動に関わる支援</p> <p>*既習の学習を振り返り四角形の性質を想起する。 *四角形のかき方を掲示物を使って想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p><b>解決の見通しをたてるために、 「平行四辺形の性質を利用すると、どんなかき方ができたでしょうか。」</b></p> </div>



見  
通  
す



めあて：平行四辺形，台形，ひし形のきまりを使って図をかこう。

### 3 自力解決する

○答え合わせのコーナーで，自分がかいた四角形のかき方の手順を伝え合う。

- ・四角形のどんな性質を使ったのか。
- ・辺の特徴を使うとコンパスでかける。
- ・角度に着目すると分度器でかける。
- ・平行に着目すると三角定規の組み合わせでかける。

○追加問題に取り組む

- ・四つの辺の長さが4 cmで，二辺の間の角の一つが $60^\circ$ である四角形。
- ・向かい合う辺の長さが5cmと7cmで，この二辺に直角な6cmの長さの辺がある四角形。
- ・二本の対角線の長さが3cmで，垂直に交わる四角形。

### 4 本時学習を振り返る

○「今日の学習で」を書く。

追  
究  
す  
る

振  
り  
返  
る

- ・本時は今までの学習を振り返って，様々な四角形を正しくかくことができるようにすることを伝える。

**視点をもった伝え合う活動のために，  
「どなかき方をしたのか，どうして  
その書き方を使ったのかを友だち  
と伝え合ってみましょう。」**

\* 作図し終えた四角形が正解かどうか判断するために，かき方の手順やそのかき方の根拠となる性質について伝え合うようにする。

\* 伝え合うコーナーの場作りをし，答え合わせでの視点を設定する。

\* 伝え合いがめあてにそって行われるように，伝え合いチェックシートを使う。

\* 「今日の学習で」を書き，二人組で伝え合う。